

再開 Beethoven Piano Sonata 全曲演奏会

2020はBeethoven生誕250年



~第13回例会~

Beethoven **Piano Sonata**

No.4 変ホ長調 op.7

No.32 ハ短調 op.111 / 他

Piano 後藤 泉

2020/ **7月26日** (日)

開演 午後2時00分 開場 午後1時30分

会場 猪苗代町 体験交流館 **「学びいな」**

969-3123 福島県耶麻郡猪苗代町字鶴田141-1
(☎ 0242-72-0180 : FAX 0242-62-5350)

参加費 大人1500円 18才以下無料

会場でのマスク着用・健康状態確認・手指消毒・連絡先確認等
新型コロナウイルス感染防止対策にご協力下さい。

主催 **Piano Sonata 全32曲を聴く会**

問合せ 発起人 コピヤマ 090-1932-0345 電話・FAX 0242-62-2701
e-mail : tatu@mui.biglobe.ne.jp



Piano 後藤 泉

後藤 泉 Goto Izumi

<http://www.izumigoto.com>



Pianist 後藤 泉

桐朋学園大学音楽学部ピアノ科卒業。同大学アンサンブル・ディプロマコース修了。2001年よりウィーン・フィルハーモニー管弦楽団チェロ首席奏者フリッツ・ドレシャル、02年より同楽団元コンサートマスター、ウェルナー・ヒンクと定期的に共演を重ねる。以後、ウィーン・フィルの首席奏者と数多く共演。また、ゲヴェントハウス管弦楽団元コンサートマスター、カール・ズスケ、同チェロ首席、ユルンヤーコブ・ティム、ベルリンシュターツカペレのマティアス・グランダー（クラリネット首席）など海外のトップ奏者と数多く共演。小林研一郎指揮日本フィル、井上道義指揮新日本フィル、ローマン・コフマン指揮ベートーヴェンオーケストラ・ボン、ローマン・コフマン指揮キエフ室内管弦楽団などと協演。ベートーヴェン／リスト編曲（ピアノ版）交響曲第3番「英雄」&第1番、第9番「合唱」、第6番「田園」&第4番のCDをリリースしているほか、交響曲全曲のチクルスも度々成功させている。NHK文化センター青山教室、横浜教室でのレクチャーコンサート、飛鳥II船上でのコンサート、他分野とのコラボレーションなども好評を博し、各地で定期的な公演も数多く行われている。現在、NHK文化センター青山教室と猪苗代町で、BeethovenPianoSonata32曲演奏会を開催。福島県内での演奏会は30回を数える。

PianoSonata No.4 変ホ長調 op.7

作曲年は1796年から1797年と推定されている。作品2の3曲（第1番、第2番、第3番）と比べて規模と内容の両面に格段の進歩が見られ、長さの面では全32曲のピアノソナタの中でも第29番（ハンマークラヴィーア）に次ぐ4楽章からなる、大作となっている（演奏時間約28-29分）。

曲は1797年10月にウィーンで出版され、ハンガリー出身のケグレヴィチ伯爵令嬢バルバラへと献呈された。バルバラは当時ベートーヴェンにピアノを習っており、近所に居住していたバルバラのレッスンのためにベートーヴェンは寝起きのままの姿でケグレヴィチ邸を訪れることもあったという。ピアノの卓越した腕前を持ち作曲者と恋愛関係にあったとされることもある彼女は、他にもピアノ協奏曲第1番など複数の作品の献呈を受けている。

PianoSonata No.32 八短調 op.111

ベートーヴェンの最後のピアノソナタ3作品（第30番、第31番、第32番）は、大作の仕事の合間を縫うように進められてた。1819年頃にはスケッチに着手しており、1820年9月20日の書簡ではこの曲の作曲を進めている最中であることが報告されている。その後、浄書開始の日付として譜面に1822年1月13日の日付が書き入れられており、この直後に全曲の完成に至ったと思われる。当時のベートーヴェンは『ミサ・ソレムニス』や交響曲第9番などの大作にも取り組んでおり、これら晩年の作品群は同時に生み出されていったことになる。

この曲の完成をもってベートーヴェンは初期より続けてきたピアノソナタの作曲は終了する。

演奏時間約24分の32番ソナタは第1楽章と第2楽章が、際立った対比を示す。終曲に向かって遥かな高みに至り、このピアノソナタがこれ以上の楽章を必要としないことを聴く人は、自ずと悟るといわれるほどである。

他の後期ピアノソナタと同様、この作品もフーガ的要素を含み、非常に高い演奏技術をピアノ奏者に要求する。

猪苗代町体験交流館「学びいな」概略図 (猪苗代町付近)



Beethoven NO.32 Piano Sonata

32曲の作品番号付きのピアノ・ソナタは、西洋芸術音楽の中でも中核を成すレパートリーである。

ピアノ・ソナタは、ベートーヴェンの作品を通じて交響曲にも比肩しうる規模と芸術的な重みを持っている。ピアノは、ベートーヴェンが生きた時代に飛躍的な発展を遂げ、彼はその時々の最新鋭のピアノの能力を反映させて創作した。その為、音域や音量の拡大が作品に反映されていると考えられる。

ベートーヴェンにとってのピアノ・ソナタは、もっとも身近で、しかも重要度が高く、作曲技法上の様々な実験を行うのに重要なものだった。

Piano Sonata 全32曲を聴く会

2020がBeethoven生誕250年の記念年である事から、Piano Sonataの全曲を聴き、作曲者の生涯の苦悩と歓喜を感じようと演奏会を開催しています。

問合せ先 発起人 コヒヤマ

969-3103 福島県耶麻郡猪苗代町字島田1615

☎・FAX 0242-62-2701・090-1932-0345

e-mail : tatu@mui.biglobe.ne.jp

猪苗代町体験交流館「学びいな」

969-3123 福島県耶麻郡猪苗代町字鶴田 141-1 ☎ 0242-72-0180